

都道府県番号	42
都道府県名	長崎県

【  】

学校名及び規模

学校名	上五島町立青方小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	1	12	16
児童数	52	33	54	49	48	43	1	279	

研究の概要

(1) 研修主題

「基礎・基本の確実な定着を図る学習指導」  
～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～

(2) 研修主題設定の趣旨

本校においては、「確かな学力」を学習指導要領総則に示されている各学年で学習する基礎・基本の確実な定着を図ることと捉える。一人ひとりの子どもの実態に応じたきめ細かな指導を行うことで、各学年の基礎的・基本的な内容を確かに身に付けた子どもを育てることを主眼におき、本研究主題を設定した。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫

研究推進委員会・全体会を軸に、低中高学年を単位とした授業研究部会をおき、授業研究を推進する。また、学習環境部会・連携調査部会・情報部会からなる3つの専門部会を設け、学習環境の整備や各種調査、連携、情報の公開等を行う。

(2) 研究の実際

原則として毎週火・木曜日（15：35～16：30）を研修日として位置づける。  
研究の目標、研究仮説、具体的な研究内容を明確に設定し、研究を推進する。

研究の目標

- ・確かな学力を持った子どもを育てる。（学んだ力）
- ・自ら課題を持ち、自主的、主体的に課題解決に取り組むことができる子どもを育てる。（学ぶ力）
- ・学習に意欲的に粘り強く取り組み、自己の学力を高めることができる子どもを育てる。（学ぼうとする力）

研究仮説（全体仮説）

- ・「各教科・領域において、子どもたち一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るための教材の開発、指導方法・指導体制の工夫改善、学力の評価を生かした指導の改善を行うことにより、子どもたち一人ひとりが自主的・主体的に課題解決に取り組むとともに、基礎的・基本的な学習を粘り強く続け、確かな学力が身に付くであろう。」

具体的な研究内容

学力向上のための授業改善

- ・確かな学力を持った子どもを育てるための指導方法の工夫改善
- ・確かな学力向上を図るための指導体制の工夫改善
- ・確かな学力向上のための評価活動の工夫改善

主体的な学び方の育成

- ・自主的・主体的に課題に取り組む子どもを育てるための学び方を身に付けさせる指導方法の工夫改善
- ・学習に粘り強く取り組み、自己の学力を高めようとする子どもを育てるための指導方法の工夫改善

校種間及び家庭・地域との連携

- ・地域連携

研究実践（視点 「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」について）

\* 少人数授業、習熟度別指導の計画的な導入

習熟度別指導活用区分類型の作成

- ・習熟度別指導の活用のしかたについて分類し、「観点別類型」と「学級数別類型」を作成することにより、計画的に習熟度別指導が実施できるようにした。

単元指導計画類型の作成

- ・習熟度別指導における単元指導計画について分類し、各単元の特性に応じた指導計画の作成、実践ができるようにした。（下表参照）

習熟度別指導における単元指導計画類型

類型	指導計画の内容 (A:補充コース, B:適用コース, C:発展コース)										
A型	<p>大単元の終末(まとめ)又は各小単元の終末の段階において、習熟度別学習コースに分かれる。 学習課題・取り扱う内容・学習速度ともに各コースで異なる。</p> <p>単元の流れ </p> <table border="1"> <tr> <td>きめ細かな少人数授業</td> <td>A B C 習熟度別指導</td> </tr> <tr> <td>きめ細かな少人数授業</td> <td>習熟度別指導 (1)</td> <td>きめ細かな少人数授業</td> <td>習熟度別指導 (2)</td> </tr> </table>	きめ細かな少人数授業	A B C 習熟度別指導	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (1)	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (2)				
きめ細かな少人数授業	A B C 習熟度別指導										
きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (1)	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (2)								
B型	<p>大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。 各単位時間の学習課題は共通であるが、各コースごとに取り扱う内容及び学習速度が異なる。</p> <p>単元の流れ </p> <table border="1"> <tr> <td>A B C</td> <td>習熟度別指導</td> <td>単位時間の学習活動 (Aコース) 共通の学習 補充 (Bコース) 共通の学習 適用 (Cコース) 共通の学習 発展</td> </tr> <tr> <td>きめ細かな少人数授業</td> <td>A B C 習熟度別指導</td> <td></td> </tr> </table>	A B C	習熟度別指導	単位時間の学習活動 (Aコース) 共通の学習 補充 (Bコース) 共通の学習 適用 (Cコース) 共通の学習 発展	きめ細かな少人数授業	A B C 習熟度別指導					
A B C	習熟度別指導	単位時間の学習活動 (Aコース) 共通の学習 補充 (Bコース) 共通の学習 適用 (Cコース) 共通の学習 発展									
きめ細かな少人数授業	A B C 習熟度別指導										
C型	<p>大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。 学習課題・取り扱う内容・学習速度ともに各コースで異なる。</p> <p>単元の流れ </p> <table border="1"> <tr> <td>A B C</td> <td>共通の学習</td> <td>補充</td> <td>適用</td> <td>発展</td> </tr> <tr> <td>きめ細かな少人数授業</td> <td>A B C 共通の学習</td> <td>補充</td> <td>適用</td> <td>発展</td> </tr> </table>	A B C	共通の学習	補充	適用	発展	きめ細かな少人数授業	A B C 共通の学習	補充	適用	発展
A B C	共通の学習	補充	適用	発展							
きめ細かな少人数授業	A B C 共通の学習	補充	適用	発展							
D型	<p>選択課題別のコースに分かれる。 児童の興味・関心及び能力等に応じて、課題を選択する。 課題に難易度をつけ、習熟度別指導の準備段階として導入する。(主に低学年)</p>										

学級内習熟度別指導の実践

・五島は、ほとんどが学年単学級、複式学級という実態にある。このような実態を踏まえて、学級担任1人で習熟度別指導を行う「学級内習熟度別指導」の導入を研究実践した。

習熟度別指導年間指導計画(算数科・理科)の作成

・算数科と理科においては、習熟度別年間計画を作成した。算数科では、「数と計算」領域を中心に単元指導計画類型A型を基本として全学年作成した。理科においては、習熟度別指導に適した単元を精選して作成した。

(3) 研究の成果と課題

学力検査の分析結果から

- ・14年度6月実施の算数科の学力検査の結果と15年度6月実施の学力検査の結果を比較分析すると、数値的に明らかに学力の向上が見られた。昨年度は、算数科の各領域ともに全国平均をやや下回る傾向にあったが、本年度はどの領域においても全国平均値を上回る結果となっている。これを5段階評定で見ると、2の段階の児童は3の段階へ、3の段階の児童は4の段階に移行する傾向が顕著に現れている。また、1の段階の児童の減少、5の段階の児童も増加している。

学力検査の分析

全校的な1年間の学力の推移はどうか

表1 平成14年6月測定 全国比(全国=100の場合)

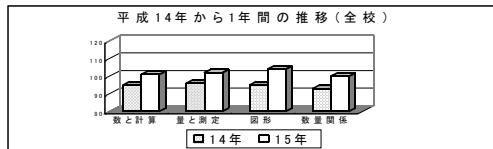
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
数と計算	94	88	98	97	99	99	95
量と測定	99	92	99	90	100	96	96
図形	90	83	98	98	108	95	95
数量関係			102	93	85	93	93

表3 平成14年6月と平成15年6月との比較

	14年	15年
数と計算	95	101
量と測定	96	102
図形	95	104
数量関係	93	100

表2 平成15年6月測定 全国比(全国=100の場合)

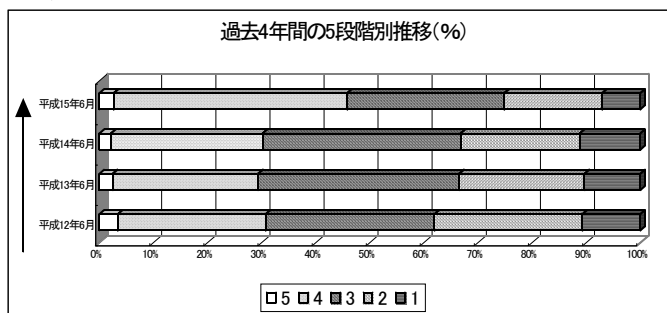
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
数と計算	96	99	98	109	103	101	101
量と測定	99	107	102	104	98	102	102
図形	99	112	109	104	98	104	104
数量関係			103	103	93	100	100



## 5段階の分布はどう変化したか

表8 5段階別の推移 (人)

段階	11年度	12年度	13年度	14年度
	平成26年6月	平成27年6月	平成28年6月	平成29年6月
5	8	6	5	6
4	64	65	65	98
3	73	90	85	66
2	64	56	51	41
1	25	25	26	16
合計	234	242	232	227



## 学び方実態調査の集計結果から

- ・児童への学び方アンケートを14年度と15年度に実施した。その分析結果は以下の通りである。

- (1) 学習規律に関すること  
「よくできている」又は「できている」と答えた児童が昨年度よりも平均4%程度増加した。特に、ノートを丁寧に取るようになったという児童が増えている。
- (2) 学習意欲に関すること  
「よくできている」又は「できている」と答えた児童が平均6%増加した。特に、わからないところを進んで質問するようになったという児童が約10%増えた。
- (3) 家庭学習に関すること  
家庭学習については、昨年度とほぼ同程度の結果であった。ほとんど家庭学習に取り組んでいない児童が全体の約8%、宿題以外に予習・復習をする児童は全体の約40%である。その他の児童は宿題があればすると答えている。読書については、昨年度は全くしない児童が全体の40%近く見られたが、本年度は20%程度まで減ってきている。
- (4) 少人数授業・習熟度別指導に関すること  
習熟度別学習コースに分かれて学習することが「とても好き」又は「好き」と答えた児童は全体の80%であった。好きな理由としては、「自分に合った学習で分かりやすい」「難しい問題に挑戦できる」「たくさん問題がとける」というものが多かった。  
それに対して「嫌い」と答えた児童は全体の5%程度であり、その主な理由としては、「コースによって学習する内容がちがうから」「自分の教室で学習したい」というものであった。

## 教員の意識改革から

- ・習熟度別指導についての意識の変化  
研究を始めた当初は、習熟度別指導を導入することに不安感や抵抗感を抱いている教師が見られた。しかし、研究が進み、習熟度別指導の具体的な実践を積み重ねていく中で、その効果が「児童の学力の定着・向上」、「主体的に学ぶ姿」として実感できるようになってきた。そのため、当初抱いていた不安・抵抗感はなくなり、中間指導を重ねるたびに習熟度別指導を積極的に取り入れて授業改善を行おうとする意欲的な姿勢が全教員に見られるようになった。その結果、教師集団として、算数科の年間指導計画の充実・改善につながり、きめ細かな少人数授業・習熟度別指導を中心とした意図的・計画的な授業改善がなされるようになった。
- ・授業改善に向けての意識の変化  
一斉・画一型の授業から脱却し、主体的な学び方の育成をめざして研究を進めてきたことにより、教師の授業改善に対する意識に変化が見られた。児童の主体的な学びを支援するための単元指導計画や単位時間の指導方法の工夫改善はもとより、児童の主体的な学習を支える教材開発や教材研究、資料作り、発問の工夫などにどの教員も熱心に取り組むようになった。

## 保護者の意識の変化から

- ・学校長による「学校だより」、連携調査部による「フロンティアだより」の発行や学校開放日での授業参観の実施等により、本校の取り組みに対する保護者の意識に変化が見られた。特に、習熟度別指導についての理解が深まり、学校への協力・支援が以前にも増して活発となってきた。
- ・保護者・地域人材による「学校支援ボランティア」を組織し、教科指導や学校環境の整備等に積極的に関わる体制作りも行った。保護者を中心に学校教育に対する関心や理解が深まり、学校・家庭・地域が緊密な連携を取って教育活動を推進しようという意識が高まってきた。

(4) 研究成果の普及の方策

学力向上フロンティアスクール・公開授業開催(6月17日・火)

学力向上フロンティアスクール・推進地区内すべての学校参加による公開授業を伴う発表会(中間発表会)開催(11月20日・木)

HPによる情報公開・ホームページアドレス(<http://www12.ocn.ne.jp/~aosho/>)

フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及活動

・平成15年度小学校教育課程研究協議会・全体会実践発表(7月25日・金)

(5) その他

幼小・小中・地域連携

・生活科等を通じた幼稚園との連携

・中学校体育教師による習熟度別指導

・夏休み中の地区別公民館学習塾の開催

学力向上対策情報交換会

・特に補充が必要な児童についての情報交換及び対策についての研修

フロンティアだより

・フロンティア事業に関わる取り組みの紹介(保護者・地域へ)

学校支援ボランティア

・地域人材の有効活用(教科指導, 学校環境, 道德教育, 読書活動等)

次の項目ごとに, 該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】            15年度からの新規校         14年度からの継続校

【学校規模】                    6学級以下                     7~12学級  
                                  13~18学級                    19~24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】                     少人数指導                     T, Tによる指導  
                                  一部教科担任制                その他

【研究教科】                    国語                    社会                     算数         理科  
 生活                    音楽                    図画工作    家庭  
                                  体育                    その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】         有                    無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

「補充・発展教材一覧表」の作成

・算数科における習熟度別学習のコースに応じた教材を開発し, 「補充・発展教材一覧表」に学習資料の累積・整理を行う。

習熟度別指導における単元指導計画類型の作成

・A型 大単元の終末(まとめ)又は各小単元の終末の段階において, 習熟度別学習コースに分かれる。

・B型...大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。

各単位時間の学習課題は共通であるが, 各コースごとに取り扱う内容及び学習速度が異なる。

・C型...大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。

学習課題・取り扱う内容・学習速度ともに各コースで異なる。

・D型...選択課題別のコースに分かれる。